田代時報

4月号

発行所　田代村公民館
電話19番
発行責任者　湯ノ谷米吉
編集責任者　小川　兵一
鹿児島市易居町2
南日本新聞社印刷局

(村の努力目標)
ふたゝび 青年の育成強化について

社会教育主事　小川　兵一

青年がしつかりして居るか、だらしがないかによつて、将来家庭や村が栄えるか、衰えるかがきまつて行くのでありまして、青年問題こそは片時もゆるがせに出来ない重大な問題であります。

我が村ではそうした考え方に立つて、今年度に於ける二大努力目標の一つとして、「青年の育成強化」と言う問題が取り上げられたことは、既に皆さん御承知の通りであります。

此の問題については、今日迄色々な機会に色々な方法で、説明とお願いを致して参りましたが、今回は更に深く掘り下げて、之が具体的な育成強化の方策について、私共が考えて居る事を申し述べ、皆様方の心からの御協力をお願いする次第であります。

青年育成強化の具体的な方策

◆武道を振興して身心を練磨する

自主性とか自由主義とか言つた言葉のはき違いで、今日の青少年は放じゆうが過ぎて、身心を鍛練する機会から出来るだけ遠ざかろうとし、段々すち金の通つた何物にも屈しない強い意志力を失いつゝあると言われます。

鉄は熱いうちにたゝけ、と言う言葉の通り、青年期にうんと身心をたゝいて鍛える事は非常に大事な事であり、之をてつとり早く進めるのが武道だと思いますので、今年は色々手をつくして武道振興の道を開き、すち金のはいつた身心共に強い青年を育てる事がかんなめだと思います。

其れと同時に健全な運動競技を普及して、青年の有り余る情熱のはけ口をつくる事も考えねばなりません。

女子青年は生花や琴、三味等古典音楽等によつて、情操をとう冶し、家庭や村に精神的うるおいをもたせる事も大事な事だと思います。

◆部落青年団の育成強化

部落団がしつかりして居れば、青年もしつかりして居り、部落団のみだれた所には不良じみた青年が多い、と言う動かせない事実にてらして、どうしても部落団をしつかりしたものにして、此の組織を最大限に活用して個々の青年の素質を高めなければなりません。

各部落では壮年、婦人の方々が心を合せて、未加入団員解消運動に全面的な御協力をお願いします。

小人数で団が成り立たない部落は、数ケ部落を統合して数ケ部落にまたがつた青年団の結成は考えられないものでしようか。

尚川原青年団のように三十才迄の二部青年制も非常に良いようですので、麓、東部地区では何とか考えて見て下さいませんか。

◆父親教育の振興

父親の無理解な頑固さが、青年の伸びる芽を摘み切つて居る場合が多い。青年が何をしようと、やりほうだいに任せて嘘く事もいけないが、それかと言つて、あゝでもない、こうでもないと、余り干渉し過る事は、萎縮した発展性のない青年を造つてしまう結果となるので、其の辺のコツを理解し、青年をすく〳〵と伸すことが出来るような指導力をつける勉強もしてもらはなければなりません。

◆話し合いの広場を持つ

青年と成人と、青年と壮年と、青年と婦人と、青年と父親と、と言う具合に話し合いの広場をつくり、其処から青年が伸びる芽を育てる必要があります。

家庭にしても、家族間の話し合いが良く出来る家の子供は、すく〳〵とすなおに育つて行くが、家族の意見が合わず話し合い等出来ない家庭に多く不良化青少年が育つと言われて居ります。話し合いによつて、青年と成人や婦人とが精神的にとけ合つて行くことは、青年を伸ばす上に非常に大切な事だと思います。

◆青年の研究心を育てる

父親が健在で経営責任が青年の手にうつつて居ない農家の青年には五畝でも一反でも、青年が誰からも干渉を受けずに自分の考えで思存分研究が出来る研究圃を持たして戴きたいものです。青年は其処から研究の芽を伸ばし、発展の基礎を築いて行くでありましよう。

◆グループ活動の推進

各種同好会とか、四Hクラブ等の組織によつて相互研修の機会をつくる事も大事な事だと思います。御協力下さい。

◆青年学級の振興

此の問題も真剣に考えて戴き、成人婦人層の側面的な協力をお願いしなければなりません。

◆技術指導の重点

技術指導の重点を青年において、生産活動に青年の有り余る情熱を振り向ける。

◆以上色々と申し述べました

が各部落では、自分の部落に最もふさわしい方法で、立派な青年を育てる事に、部落内の総力を結集して下さいますよう切に〳〵お願い申し上げます。

林業について

林業技術員　山下郁男

「しゆろ産業先進地和歌山県の産と加工を視察いたしたのであります。」

視察を終えて……。

しゆろは決して非観すべきものではなく、自給の為にも大いに植えてもらいたい。この結論を引き出した事情と、和歌山においてはどのように産業が構成されているか?その模様とを書き綴つて見ます。

三月十日村振興大会の夜親子ラジオ放送いたしたのですが、あらためて活字にいたし皆様の御意見をおきかせ願いたいと存じます。

県の命で和歌山のしゆろ皮の生産前折角一〇〇万本計画を立てゝ既に原皮の生産時期になつているが加工において処女地であり、如何様な生産加工をすべきか、その対策を講ずよとの命であつたのです。

視察から帰つて参りまして、先般小組合長さん方にお願いして調査しました。しゆろの木の調査数値を見込みを加えて計上してみましたら、次のような結果を得たのであります。

皮の剝げる木　一一、〇〇〇本
植えてまだ皮の剝げない木　三〇、〇〇〇本
苗畑にある苗木　三三〇、〇〇〇本

となつています。

既に先進地の事情を掴んで来ている私としましては、まことにもつたいないことで、何んで三三万本もある苗木を植え込まないのだろうか?何んで一〇〇万本計画を成就しようとしないのだろうか?と突発に感じたのであります。

視察旅行中、和歌山県庁で、鹿児島県の「しゆろ」の話が出まして五、六年前和歌山から分けていたゞいた種子から、ぼつぼつ皮がとれていると口をすべらしましたところ、課長さんが急に真顔になつて、鹿児島県のしゆろ皮は良質であるから是非原皮を世話してくれ現在何本位植えて、年間何枚位原皮生産があるか聞かしてくれとたゝみ込まれて、私狼狽いたし、いやまだそのようなところまではいつていませんと、あいまいな答しか出来なかつたのであります。

本県のしゆろ熱の甚遠にひきくらべてまことに熱心な態度でありました。すべての産業には大きな起伏の山があることを実に身をもつて体験され、それをのり切つて来られた諦観がありありと感せられたのであります。

さて、和歌山においては原皮生産者と加工業者は全く別であり、山手においてはもつぱら原皮生産平地においては加工業者の集落と云う風になつています。

原皮生産地は、山全体が云つてもよい位しゆろの純林で、四、五町歩の団地から、田畑の傾斜畔道路上下の傾斜面、屋敷の周囲、すべて「しゆろ」がぎつしり植え込んであります。

植付間隔は一反歩当一、〇〇〇本〜一、二〇〇本、約三尺平方に一本となつています。そして四年生頃のものから五十年生頃のものまでその一反歩の中に雑然と植わつていて、これでよいのかと思われる位ですが、このようにして植えるのが絶え間なく皮が生産されるからよい方法だと云われます。

このような植え方で一人一日の皮剝ぎは一、〇〇〇枚〜二、〇〇〇枚が可能であるとされます。

植え方はこちらの方法と同じですが、最も注意することは、

一、植穴にゴミを入れないこと。

二、根が乾燥したり傷ついたりすることが悪いから、根に土をつけたまゝ運搬して植え付ける。

三、根は長くつけた方がよいが普通七寸位に切る。

四、日当りの良い処のものは皮の質がよい。

五、植付けた根元が乾燥しないように敷葉をする。

六、植えて三年位、毎年二回づゝ下刈り、除草をする。

七、植え付は普通二月〜四月頃である。

八、植えつけは出来るだけ浅くして球の半分位までしか埋めないと云うことが云われています。こうした場合活着は九十%位であると云うことです。まことに丁寧に取り扱つて造林に成功しています

次に加工について

前申し上げました様に加工業者は集落していくつかの町を形成しているので私共から見ると純然たる家庭工業に見えます。即ち少しの農耕の外は全くしゆろ加工に依存しているわけです。

従つて町の殆んどの家は、しゆろ皮と製品がうづ高く積まれているのは見ものです。しゆろ綱、マツト、シユロボーキ等々と大小の家内工業があるわけですが、加工技術の研究と、販路の研究とが実に徹底していて、いわば一分の隙もない歯車のように順調な廻転が行われています。

本村の場合をよく直視して見ますに、

一〇〇万本計画の三割位があるがその内大部分はまだ苗畑に眠つている現状であり、従つて原皮の生産はまことに微々たるものです

和歌山の取引単位である一荷(一、〇〇〇枚括り)に対して本村の場合一枚何円何銭也の取引単位しか出来ないことを見ても、現在ではとても太刀打出来ないのです

一部にはしゆろ綱加工の話しもきゝますが、現在の本村ではシユロボーキで勢一杯のところであることを反省して見たいのです。

皮の剝げる木四万本と踏んだ場合、一ケ年一本八枚剝げるとして原皮三三万枚。

シユロボーキ一本当原皮一〇枚いるとして一ケ年三万三千本。一ケ月平均二、五〇〇本の生産となり、鹿児島市の一卸問屋の取扱数量でしかないのです。

しかしかりに一本当五〇円とした場合一ケ年一六〇万円の収入と云うことになり、本村として捨てたものではないのであります。

さらに一〇〇万本計画を完遂した場合を見ますと、シユロボーキ一ケ年八〇万本の生産となり、年産額四千万円の収入になります。

勿論ボーキばかり作るわけではなく各種の加工業が実現し得るわけでありますので年産額はもつと上回ることになりましよう。

現在見込みなしと云われるしゆろも、よく考えて、足もとから見つめて行きますと、大きな資源で

先進地の農協を視察して

田代農協　馬庭静雄

去る三月三日肝属郡農協貯蓄推進委員会の一行十三名と、静岡県の富岡農協視察に私も参加させて戴きました。私共の参りました農協は昭和三十年度に全国優秀農協として表彰しており、静岡県磐田郡豊田村(東海道線磐田駅よりバスにて北へ十分)にあり東は磐田市に西は天竜川が流れて旧富岡村外二ケ村が合併して出来た村で、旧富岡村を其の地区として、西半分が殆んど水田で、東半分が丘陵地帯で畑作が行われていました。此の地区内の戸数は五五七戸人口は三六〇九名で組合に加入しているものは五四七戸で、耕地面積は田二二〇町、畑三二〇町(一組合員当り田畑約一町一反)

主要農産物は

	收獲高	反当平均
米	四八〇〇石	二石二斗
麦	四四一〇石	二石一斗
甘藷	一〇八〇千貫	六〇〇貫
蔬菜	五〇〇万円	二〇〇貫
煙草	二〇、〇〇〇万円	
茶(生葉)	一三万貫	

となつており私共の田代に比べて蔬菜種子にかわつて麦が多い事と都市近郊である関係上蔬菜(主として白菜)が栽培されていました。

畜産は特に目立つたものはなく強いて言えば、乳牛が二九頭で他より少し多いぐらいである。

此の組合の概況を申しますと、正組合員五〇三人準組合員四四人出資金は、予約貯金を含めて一組合員当り一一、九〇〇円となつており、役員は理事十人監事五人で任期は夫々三年となつていました組合長は、静岡県厚生農業協同組合連合会の専務理事を兼ねておられて、日常の業務は専務理事が当つていた。

此の組合が今日の如く隆盛を極めているのは前の組合長の努力による所が大で(大正十三年より昭和二十一年まで就任)至誠、勤労、人徳、推譲の報徳精神に徹して、組合員を啓蒙し組合進展の為め多大の努力をはらい、現在の組合長専務理事も此の人の指導を受けて全役職員、組合員も此の報徳精神に感化されて農事相談は勿論家庭相談等も行い組合と組合員の呼吸が完全に一致していた。

事務職員は十八名、技術員二名作業員十名で、農協発足以来の職員が十三人もいていかに職務に精通しているかがよくうかがわれた

此の組合は「麗しい明るい豊かな村づくり」を理想に掲げて、その為には

①人を造る(組合教育の大衆化)

組合員子弟の内で優秀な者を伝習農場又は、一ケ年程度の長期講習会に派遣させて組合を双肩に担う青年層の教育に力を注いでいる

②体を造る(生活文化の向上)

昭和十三年より国民健康保険を行い、医師一人看護婦二人を以つて診療所を経営していたが、現在は村に移管して此れを積立金として、其の収益により、全戸に改良便所を普及しつゝあり、炊事場、風呂場の改善に努力している。

③物を造る(農業経営の合理化)

名作物の防疫消毒を無償で行つていて土壌検定を行い施肥改善、生産販売の改善に技術員が徹し、営農計画を各戸に樹立させて此れの指導に当つている。

此のように物心両面の指導啓蒙が、やはり功を奏しているのではないかと考えさせられました。

此の組合の生産部は一般農業技術指導の外農業共済、煙草耕作、茶業、養豚、酪農、養鶏の各組合及グループの業務を司つており、此のように各団体を統合する事により組合員の負担が、より一そう軽減されている。

農業経営の水源池は貯金であるが無くて肥料を購入する事が出来ず、生産に支障を来たしてはならない。と前組合長以来貯金の増加に努めて、資金的に完全に自立出来得る組合員育成を目標に現在では一組合員当りの平均貯金高が二十万円に達している事は誠に羨望の念に尽きるものがありました

肥料は部落役員が、営農設計書に記載された肥料の共同計算申込を取りまとめて農協に申込み、農協では此れにより各部落に持込配達を行い、部落で単肥を配合して組合員に供給している。

米を除く販売品はすべて無条件委託販売共同計算により、全利用が貰かれて取扱高は

甘藷(蒸切干)一三、二〇八千円
米麦　一二、二三九千円
蔬菜、茶　三四、七一三千円
合計　六〇、一六〇千円

此の利を得ているとは言え此のように蔬菜、茶の換金作物が販売代金の内大きな比重をしめている事は、私共も今後の農業経営の在り方について一考を要するのではないかと思いました。

此の組合に来て特に感じた事は組合員を良く把握している事で、敬へる所の報徳精神に徹し、経済的にも精神的にもつながりが深く、全事業を通じて、全利用、無条件委託販売、共同計算が完全に貫かれる事によつて一組合員当りの貯蓄高も二十万円を超すと言う驚く程の金額に達している事であり、又諮問機関として、元役員、村長、村議長、学校長を以つて振興委員を構成し其の協力体制が良く整つており、他の団体とも良く協調されている事であり、総べて羨しい事ばかりでありました。

然し私共の組合も昨年整備促進の認定を受け、再び再建整備に取りかゝり昭和三十一年度は、計画以上の実績を上げ得た事は組合員皆様の御協力の賜と感謝しています。此の再建整備をより早やく遂行する為めに組合員皆様方の理解ある協力を御願いして私の報告を終ります。

【努力賞表彰】
田代村公民館 図書部表彰さる

二月の時報でもお知らせ申し上げました通り、

我が田代の公民館を、優良公民館図書部として表彰の推薦をすると言う事が県から言つて来て居りまして、実態調査も県から来られたのですが、

さる、三月二十日、鹿児島県教育委員会、県公民館、図書館各協議会、南日本新聞社共催の優良公民館図書部の表彰式が行われ、優良賞三努力賞二が表彰されました。

田代村公民館図書部は、努力賞として表彰され、賞品賞状がおくられました。

これは全く村民の皆様方の協力の賜に外ならないのであります。

今後も読書普及運動には絶大なる御支援を賜り読書活動によつて、文化を高め、住よい、明るい家庭や村をつくつて下さいますよう御協力をお願い申し上げます。

学校職員の異動
(四月一日附)

田代小　重久弥生　大始良小へ
〃　四村先生　退職
〃　池山先生　島治小へ
あると云えます。

こゝに更らに申し上げますならば、和歌山においては何万人かの人々が現在しゆろでメシを食べていると云うことです。

そして又更らに

今私共が植えないならば本村内のしゆろの木は将来四万本以上には絶対に増えないと云うことです。

何だか視察談がお説教みたいなことになつてしまいましたが、視察に際して最も強く感じた点を率直に申し上げたまでゝありますので御了承下さい(三二三三四)

田代中　名ケ迫校長田良小校長へ
〃　小牧先生　郡中教頭へ
〃　都外川先生西長島中へ
〃　鶴田先生　谷山中へ
〃　中原先生　大根占小へ
〃　溝　先生　二股川小へ
〃　田代中　田代小へ
〃　田代小　小梅技事務職員田代中へ
〃　田代中へ　新田先生
〃　田代小へ　学級増

轉入者

田代小より　田代中より
矢野達哉　市来小より
竹内安子　郡小より
川辺義弘　神川中校長
木之下一誠　郡中より
西栄之助　国上中より
田淵久子　滑川中より
田代小へ　新卒女一名
大原小へ　新卒男一名
田代中へ　新卒一名配置の予定
大原小中学校は転出者なし

昭和三十二年度 当初予算について

総額二二、六三八千円

昭和三十二年度当初予算については目下議会で審議中であり、この時報が皆様のお手もとに配付される時は、既に決定致し、一部の異動もあることも考えられますが一応原案によりまして、予算編成の方針、予算額その他について説明申し上げ度いと考えます。

予算編成方針

最近の地方団体の財政は極度に窮迫し、昭和三十年度における全国の地方団体の決算総額についてみますと、収支差引一三〇億の赤字となつて居り、外に事業繰越、支払繰延等を併せた実質赤字は五四九億余りとなつて居ります。之らの問題については、現在政府並びに関係団体の間で、真剣に討議されていますが尚解決の段階に至らず、早急に財政の好転することは考えられない様な現状であります。本村の財政も勿論その例にもれず財政状態は極めて苦しいことは云うまでもありません。

このような現状のため、三十二年度の予算編成に当つては、消費的経費の極力節減を図ると共に、総ての経費の必要性と支出効果を充分検討し、予算の効率化に重点を置き、真に已むを得ないと認められる緊急の経費に限定して編成した。

歳入予算

別表によりおわかりのことゝ考えますが、歳入歳出共二二、六三八、四七〇円となつていますが、この内歳入予算のみ考えてみますと、村税が最も大きく、九一一万九千九百円、次に交付税七百万円財産収入三三三万余円、雑収入一六一万五千円その他となつて居り昨年と比較した場合、増となつている才入科目は村税約三八万、交付税五〇万、使用料約二七万、繰越金三八万、雑収入の六四万等で何れも自然増又は住宅等の増によるもの、若しくは新規事業による増収分でありますが、反面昨年より減となつている財産収入、国県支出金等は何れも事業に伴う分の減で、昨年当初には公営住宅、保育所等の事業費が計上されていたが本年度は之らの事業費が計上されていないための当然の減であります。

次に財源構成の面から考えてみますと、才入財源の内、地方税、地方交付税を一般財源、その他を特定財源と云い、前者の比重の大きい程財政は安定していることが云えるのでありますが、三十二年当初予算に現れた才入の財源構成は村税と交付税が才入の七一%を占めその他二九%となつて居り、形の上では非常に安定した財政状態を現していますが、実質的に果してそうであるかと云いますと、必ずしもそうでないことは前に説明申し上げた通りであります。

歳出予算

(本年度才出予算については、初めの予算編成方針の場合説明申し上げた通り消費的経費の節減を図るため、一般物件費は極力圧縮し又法例外の寄附金、負担金等も具体的に検討を加えて一応の線を打出し、之に基いて必要最小限の負担金の計上に留めた。人件費については、新農村建設事業推進のため、及び技術指導の一元化を図るため営農相談所設置のため二名の増を見込んだ外、保育所開設に伴う職員四人計六名の増となつたが何れも已むを得ないものであります。

之らの消費的経費に対して、投資的経費としての事業費の面では、当初予算としては殆んど取上げるようなものはないが、田代小創立七周年記念事業費として、体育施設費十八万、青年教育施設として剣道具購入費六万を計上し、その外本年度本村の努力目標である還境衛生の徹底化を期するため、この経費五一万を計上した。

次に予算の内容についてみますと昨年に比し大巾に増額されている科目は、職員増に伴う役場費の約六〇万の増、前述の保健衛生費の約五六万の増、及び公債費の五七万の増が主なもので、昨年に比して減額した科目は社会労働費の七六七万がありますが、之は昨年度は保育所及び公営住宅の建設費が計上されていたものであり、産業経済費の五四万の減は、耕地費が本年当初には計上されていないこと等の理由によるもので、その他の科目は昨年と殆んど大差はないようであります。又構成割合から予算をみてみますと、役場費の約二六%を最高に、教育費の二二%、産業経済費の一四%、公債費の八%その他の順となつていますが、役場費の比重は昨年の一八%に比べて約七%の増となつて居ります。一般的に役場費の比重の大小は財政の弾力性を知る一つの目安とされ居り、財政規模の小さくなる程役場費の比重は大きくなり財政に弾力性が少くなると云うことが云えます。又公債費が昨年の四%から倍近く大きくなつていることも、財政圧迫の一因となつていることが考えられます。

以上三十二年度当初予算について大体の説明を致しましたが、今後本年度中に予算化しなければならない事業として、新農村建設関係その他相当な額が予想されますが之らについては、具体的に検討の上、歳入の見透しをまつて追加措置をなす考えであります。

「先づミル芽を」

優良緑茶の生産の声も早や一ケ年今年も一番茶の生産期が近づいて参りました。

四月に入ると茶樹は、雨露を受ける度毎に新芽を吹き冬期間の肥培管理状態に依つて、それ相当の新芽が生育するが、此の摘採は茶園経営の最後の目標であつて最も大切な作業の一つで、摘み方如何が製茶品質並に反収に影響するところが大きく栽培者が常に苦心するところである。

先ず今年の生産はミル芽摘みで良い生葉を出していただく事が最も必要です。

それはどんなに優秀な製茶技術をもつた人でも生葉のもつている本質以上のお茶を作ることはできない事で、一にも二にも良い原料で生葉さへ良ければ、自然に良い茶が出来製造能率もたやすく向上し販売に於ては高価で売安い点等で、早期摘採の励行が生じ一昨年早場地帯にこの励行を呼びかけ四月二十八日より摘初め五月六日に第一回出代走り新茶として出荷いたしましたが、此の決果は上々で最高二三〇〇円、最低一三〇〇円で初めて農協委託販売で、お茶の金を取つて見たと云う栽培者もいた程で、如何に従来迄のお茶が商品性の低い適期はずれの生産が行われていたかが痛感されます。

そこで今年は全村挙げて商品性の高い早摘(ミル芽摘み)を実行して良い茶を作つていただきたいものです。

さて、此の良い茶を作るには常に生葉に関心をはらい、これに関する知識を備えて自分の茶園はいつでも摘適期であるか良く観察して、肥培良好なる茶園から柔かい芽で摘み方がよく古葉や古茎の混じない揃つた生葉を生産するよう心掛けていただきたいと思います。

特に肥培管理のゆきとどかない茶園等は早摘みによつて品質を揃える事が必要です。

次にミル芽づみの時期は樹勢品種の特性等によつて異るが、大体三四枚の新芽を開いた時が摘み時期に新梢の一番頂上にある芽とその下方にある三枚の葉を合せて摘んだものが最も良く三番摘みとも言われる。

お茶の摘み方

玉露の生産は皆此の摘み方で行われている、三四枚の葉をつけて摘むものを普通摘みとも云う。

普通摘は多く摘む人で一日十五貫位は摘んでいる。時期的には薗川原地区で、四月下旬より五月五日まで、東部では五月二日頃より八日頃までがミル芽摘みの時期と考えられ早期販売茶として取扱われ有利な販売が可能で有るも中には五月下旬頃摘んでいる者も数多く見られるので、今年は薗地区川原地区で五月十五日迄、東部地区で五月二十日頃までに全部生産を終るよう心掛けていただきたいものです。

此れ以後の生産は、製品は悪く茶樹は疲労します。特に本年は二番茶の田植前生産、三番茶の早つみをなすために二番茶の生産日数を縮少し一番茶早期生産の考は、是非田植前に二番茶の生産も終るこれは両手を同時に使つて摘採し、一方の手で散芽を寄せ他の手でこれをしごき摘み、一方の手は更に次に寄せて摘む方法で鋏に比較すれば、やや劣るが従来の手摘みに比すれば四、五倍の一日十五貫位の能率が有り、而も鋏摘みで悩む木茎古葉の混入が少く製茶品質も極めて良好である。

今年は此の両手摘み講習会も、各地区毎に実施しますので多数の受講者を希望し今後の茶摘み改善に協力願いたい。

鋏摘みについて一般的注意事項

一例を申し上げますと、甲の人が一番茶を五月二日に摘んだ時は二番茶は三五日目の六月十日頃摘採ができます。

早期摘採について注意する点として一番茶手摘が終つたら、すぐ鋏で園揃又は刈番茶を取つて置く事が必要です。

次に摘採の方法ですが、茶摘みには鋏摘みと、手摘みとが有るが一番茶はなるべく手摘が良く、手摘みでも能率的な両手摘みがあるよう努力願います。

(一)手摘みに比し摘採期を若干早める、これは鋏摘み茶園は摘採面に細い短い枝が密生し萌芽数は多くなるが茶芽の伸育は短いので、その伸育を待つて多くの収量を得ようとすると勢い破葉摘となり品質が低下する。

(二)鋏摘みは手摘みに比し樹勢を損じ易いから、充分肥培をなし維持に努める。

(三)木茎古葉が混入しないよう残刈りすれば年々樹高が高くなるので四、五年毎に適当な高さまで剪枝すること。

(四)切葉が多く品質が低下する等がある。尚生葉の取扱いについても出来るだけ丁寧に取扱い摘採された生葉は長時間茶篭に堆積し、或は茶園に放置して日に当てることがない様なるべく短時間の中に生葉貯蔵室に搬入し加工することが必要である。

最後に製茶委託販売で有りますが、今年も農協で委託販売を致しますので製茶三貫以上(生葉十五貫程度)所有の者は、なるべく自分で荒茶まで加工して販売することとして、出荷計画もいたしていますので、此の時期に入念なミル芽生産で有利な委託販売で今年の一番茶を終りたいものです。

特に肥培充分で早期摘採の出来る五月六日頃迄の製茶は走り新茶とをお奨めします。

茶業係　福山

別表1

昭和32年度当初予算集計表

歳入

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較	%
1 村税	9,119,900	8,736,200	383,700	40.28
2 地方交付税	7,000,000	6,500,000	500,000	30.92
3 公営企業及財産収入	2,330,230	4,086,465	△ 1,756,235	10.29
4 分担金及負担金	214,530	43,102	171,428	0.95
5 夫役及現品	20	20	—	
6 使用料及手数料	647,710	369,610	278,100	2.85
7 国庫支出金	776,900	6,017,350	△ 5,240,450	3.43
8 県支出金	543,750	1,388,545	△ 844,795	2.40
9 寄附金	3,740	646,790	△ 643,050	0.02
10 繰越金	386,460	3,858	382,602	1.71
11 雑収入	1,615,230	977,400	637,830	7.14
12 村債	—	—	—	—
計	22,638,470	28,769,340	△ 6,130,870	100.00

歳出

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較	%
1 議会費	806,860	764,640	42,220	3.56
2 役場費	5,845,000	5,240,800	604,200	25.82
3 消防費	771,000	676,630	94,370	3.40
4 土木費	1,150,480	1,350,600	△ 200,120	5.08
5 教育費	5,048,260	4,689,960	358,300	22.30
6 社会及労働施設費	968,850	8,637,880	△ 7,669,280	4.28
7 保健衛生費	976,850	420,830	566,020	4.32
8 産業経済費	3,119,230	3,660,030	△ 540,850	13.78
9 財産費	1,673,030	1,583,120	89,910	7.39
10 統計調査費	36,100	29,600	6,500	0.16
11 選挙費	37,600	104,000	△ 66,400	0.17
12 公債費	1,777,410	1,210,000	567,410	7.85
13 諸支出金	278,050	251,200	26,850	1.23
14 予備費	150,000	150,000	—	0.66
計	22,638,470	28,769,340	△ 6,130,870	100.00

春季防犯運動について

大根占警察署

昨年一ケ年の県の状況をみると人員にして二、四八六名全刑法犯の二八%が少年犯罪で全国平均の二一・八%よりはるかに高い比率となつています。

我が大根占署においても現在三十六名の補導少年を抱えて居りますこれ等少年犯罪は家庭の放任飲酒喫煙等にはじまる小遣銭不足夜遊び等に基因する悪友の感化などが主な原因で次第に不良化犯罪化のコースを辿つて居ります。

特に春は季節的にも花見やお祭り等一般的に開放された生活環境に支配されるとともに学生生徒は学期末において学校規律から開放されて卒業進学就職と心理的にも大きな転換期にあるなど青少年不良化の危険率が最も高い時期にあるといえましょう。

「治療より保健」の例の通り犯罪を犯かす前更に進んで不良化せぬうち悪の芽は出来るだけ小さいうちにとり除いてやることに心掛けるべきで青少年不良化の足もとに横たわる原因を一つ宛でも除去して行くことに協力し合うことが必要ではないでしょうか。

二、犯罪等の予防について

イ、最近又盛難事件が沢山発生していますこれ等の犯罪や押売りもお互い一人一人が注意することは勿論ですが当守宅の協同警戒押売りの協同防止など隣り近所部落が組織力を利用し協同して警戒防止することが望ましく被害を受けた場合又は押売り不審者の立廻りについては少しでも早やく現場はそのまゝにして警察に届けるよう御協力を願います。

事件発生押売等で緊急に警察に電話される場合は「警察」と呼んで戴ければ市外からでも無料で優先接続して貰れます。

ロ、次にこの行楽期には酒を伴う暴行傷害の発生が増加するのが毎年の例であり又年間を通じこの種の事件が犯罪のトップを占めているのがこの地方の特殊性ともいえます。

お互が自分の酒量酒癖に充分自戒するとともに同席同伴される方々の御協力によりこれら犯罪を一日も早やく一掃したいものです。

ハ、最近学校や官公署を対象とした盗犯が県下各地で頻発して居りますから夜の警戒貴重品の保管等に充分な御検討を願います。

甘藷催芽床について

我が村の耕地面積の大半は畑地で占めて居りこれの夏作物としての甘藷栽培面積は二百町歩を上廻つて居りますが、最近早期陸稲への切換えも多く成りつゝあり喜ばしい事でありますが、台風常襲地帯の換金作物として、又家畜飼料としての甘藷栽培の役割は見逃せぬものであります、限られた面積の中より如何にして多量生産を図り農家の暮らしを豊かにするかについては、皆様方と共に日夜研究致して居るのですが、先づ甘藷増産のコツは健苗育成が基本になると考えられます、あらゆる農作物でも苗半作と言つて居りますが、甘藷の場合は特に育苗期に於いて六割が決定されると言われて居ります。

本村に於ける伏込の適期は、三月二十三日から二十八日頃までと言われて居りますので、皆様方はすでに伏込は終つて居られる事と思いますので、これの移植について申上げて見ます。

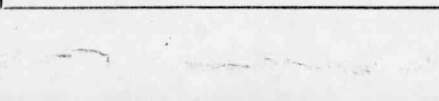
甘藷は伏込後十日位で(適温二十七八度)発芽して五日目頃に芽そろい致しますので、移植の時期は伏込後約二十五、六日目頃の芽が二、三寸伸びた時期に行う事にします。あまり早くても又芽が五、六寸に伸びた時期も活着が非常に悪くなりますので必ず適期に行つて下さい。

四月中下旬頃に成りますので、外温が非常に低温のため管理に充分注意しなければかえつて悪い結果になります。

地温を高く入れて堆厩肥の発熟によつて地温の上昇を図ります。株間一尺五寸前後にして移植当時は二、三寸位の深さに甘藷をイケます、芽が伸びるに従つて、二寸位の土入れを実施して行きます。一番苗は五寸位伸びた頃早目に切取り二番苗の優秀な苗を多く生産し適期に植付が出来る様にします。

右の様な畝巾株間にしますと一坪十二株となり一反歩に必要な面積は二〇坪が必要と成ります、二十坪の移植床より約六千本位の苗が得られるので植付面積によつて、移植の面積も都合して下さい。

農協　谷村技師



寒稽古

天神　鮎川　忠

公民館の六時
サツ!と
左目然体に組んだ
瀬戸口と小坂
ススツ! すすつ!
素早い両者の足運び
トオツ!!
一瞬小坂の巴投げに
瀬口の体が宙におどつた
「うまい!」
思わず岡田が
声を発すると
「なーに今のはまぐれだ」
小坂はいつ勝つても
まぐれだと謙遜する
ようやく
遅い霜朝が
白んできた